

プレスリリース

2025年6月12日

オットーボック・ジャパン株式会社

世界初！三肢切断で単独太平洋横断に挑む

両脚と片腕を失ったクレイグ・ウッド氏

7000海里の航海の末、6月下旬に広島港に到着予定

英国の退役軍人クレイグ・ウッド氏（34）が、三肢切断者（両脚と片腕）として世界で初めて、単独で太平洋横断航海に挑戦しています。2025年3月、メキシコのプエルト・バジャルタを出発し、日本の広島を目指して約7,000海里（約13,000km）の航海に出ました。

使用するのは全長41フィート（約12.5m）の双胴船「Sirius II」。航海期間は約80日を見込んでいます。この挑戦の目的は、障がいに対する社会の認識を変え、世界中の人々にインスピレーションを与えること。また、負傷した退役軍人を支援する慈善団体「[Blesma](#)」および「[Turn 2 Starboard](#)」への寄付金として5万ポンドの調達も目指しています。



「自分の限界を超えることで、他の人にも“できる”という勇気を与えたい」 -クレイグ・ウッド氏

©CraigWoodSails



双胴船「Sirius II」

©GD Media

アフガニスタンでの負傷から、人生最大の冒険へ

2009年4月、アフガニスタンでの任務中、当時18歳だったウッド氏は即席爆発装置（IED）による爆発に巻き込まれ、両脚と左腕を失い、顔にも重傷を負いました。2週間の昏睡状態と4年にわたるリハビリを経て、彼は再び立ち上がります。

「失ったものを嘆くのではなく、今できることに集中した」 -クレイグ・ウッド氏

差出人: オットーボック・ジャパン株式会社 〒105 0012 東京都港区芝大門 1-9-9 野村不動産芝大門ビル 4F

www.ottobock.com/ja-jp

TEL: 03-6739-4090 (代表) / FAX: 03-6739-4097 (代表)

幼少期から家族と英国の海岸でセーリングを楽しんでいた彼にとって、セーリングは趣味を超え、人生の目的となりました。パラリンピックのセーリングチームとの関わりを経て、2015年に世界一周を決意。以来、妻と2人の子どもとともに、船上生活を送りながら航海技術を磨いてきました。

オットーボックの技術が支える挑戦

この挑戦を支えるのが、ドイツの医療福祉機器メーカー、オットーボックの義肢装具です。ウッド氏は両脚に防水・耐腐食性に優れた義足膝継手『Genium X3』を装着し、船上や陸上での生活を送っています。さらに、荒天時や狭い船内での作業時には、不安定な足場に優れた義足足部『Challenger』を使用しています。

「『Genium X3』のおかげで、船上での作業がより快適かつ安定し、以前はできなかったことにも挑戦できるようになった」 ークレイグ・ウッド氏

航海の様子は公式SNSで配信中

ウッド氏の航海は、公式SNSにてライブ映像が配信されています。極限の環境下での挑戦を通して、彼は「不可能を可能にする」その姿勢を世界に発信しています。

【公式ホームページ】 <https://www.craigwoodsails.com/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/profile.php?id=61561107568047>

【Instagram】 <https://www.instagram.com/CraigWoodSails/?locale=ja-JP&hl=en>

【YouTube】 <https://www.youtube.com/watch?v=rQNveESK0el>

オットーボックについて

オットーボック（本社・ドイツ ドゥーダーシュタット）は1919年の創業以来、身体の高い動きを支援する革新的な製品とサービスを展開する医療機器メーカーです。現在135か国以上で事業を展開し、約1万人の従業員が活躍しています。1988年よりパラリンピックを技術面で支援し続け、障がい者スポーツの発展にも貢献しています。

オットーボック・ジャパンについて

日本法人であるオットーボック・ジャパン株式会社は1999年に設立され、日本国内で最先端の医療福祉機器の普及とサポートを行っています。

【本リリースに関する取材問合せ先】

オットーボック・ジャパン（株）マーケティング

担当：吉田 茜（ヨシダアカネ） 直通電話：03-6739-4092 携帯：080-3351-4962

E-Mail：akane.yoshida@ottobock.co.jp